

## みずほマーケット・トピック(2025年11月7日)

### 内容 1. 為替相場の動向 2. 来週の注目材料

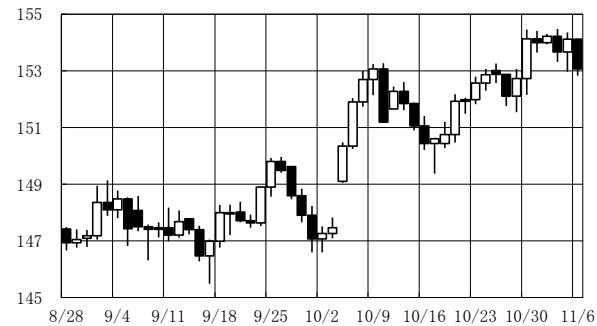
※誠に恐れ入りますが、「3. 本日のトピック」はお休みさせて頂きます。

#### 1. 為替相場の動向(関連レポート:「みずほ Customer Desk Report」、「今週の為替相場見通し」)

- 今週のドル/円はじりじりと値を下げる展開。週初3日、154.20円でオープンしたドル/円は本邦休場で薄商いの中、154台前半で小動き。海外時間は、米10月ISM製造業景気指数の予想を下回る結果を受けて154円割れまで軟化する場面もあったが、総じて154円台前半を中心としたレンジ推移に終始した。4日、ドル/円はドルの買い戻しが継続して一時週高値となる154.48円まで上伸も、片山財務相による円安けん制発言を受けて153円台半ばに反落。海外時間は、材料難の中で、153円台半ばでレンジ推移した。5日、ドル/円は日本株安に連れる格好で一時153円割れまで急落も、米金利反発に合わせて153円台後半に値を戻した。海外時間は、米10月ADP雇用時計や米10月ISM非製造業景気指数の良好な結果を受け、米金利の一段高を横目に154円台前半に上値を伸ばした。6日、ドル/円は米金利反落を背景に154円を割り込む展開。海外時間は、米株安に伴うリスクオフや軟調な米経済指標が嫌気され、一時152.84円まで値を下げた。本日のドル/円は、週安値を更新しながら取引されている。
- 今週のユーロ/ドルは週半ばにかけ軟調推移も、その後は反発に転じた。週初3日、1.1527でオープンしたユーロ/ドルはドル買い相場を受け1.15台前半でじり安も、軟調な米経済指標を受けたドル売りが支えとなり1.15割れは回避された。4日、ユーロ/ドルは全世界株安に象徴される市場心理の悪化が重しになる中で、1.14台後半にじり安となった。5日、ユーロ/ドルは新規材料に欠ける相場環境の中で、一日を通して1.14台後半でのレンジ推移に終始した。6日、ユーロ/ドルは米金利の低下に加え、米雇用関連指標の軟調な結果などが支援材料となり、一時週高値となる1.1552に上昇した。本日のユーロ/ドルは、引き続き1.15台半ばで取引されている。

		前週末	今週			
		10/31(Fri)	11/3(Mon)	11/4(Tue)	11/5(Wed)	11/6(Thu)
ドル/円	東京9:00	153.91	154.20	154.26	153.56	154.09
	High	154.41	154.30	154.48	154.35	154.13
	Low	153.66	153.84	153.32	152.96	152.84
	NY 17:00	154.00	154.20	153.66	154.11	153.06
ユーロ/ドル	東京9:00	1.1573	1.1527	1.1516	1.1485	1.1494
	High	1.1577	1.1541	1.1533	1.1498	1.1552
	Low	1.1522	1.1505	1.1474	1.1469	1.1492
	NY 17:00	1.1533	1.1520	1.1482	1.1493	1.1547
ユーロ/円	東京9:00	178.10	177.70	177.60	176.16	177.15
	High	178.56	177.96	177.66	177.13	177.18
	Low	177.47	177.24	176.10	175.76	176.34
	NY 17:00	177.75	177.60	176.44	177.10	176.69
日経平均株価		52,411.34	-	51,497.20	50,212.27	50,883.68
TOPIX		3,331.83	-	3,310.14	3,268.29	3,313.45
NYダウ工業株30種平均		47,562.87	47,336.68	47,085.24	47,311.00	46,912.30
NASDAQ		23,724.96	23,834.72	23,348.64	23,499.80	23,053.99
日本10年債		1.65%	-	1.67%	1.66%	1.68%
米国10年債		4.08%	4.11%	4.08%	4.16%	4.08%
原油価格(WTI)		60.98	61.05	60.56	59.60	59.43
金(NY)		3,996.50	4,014.00	3,960.50	3,992.90	3,991.00

ドル/円相場の動向



ユーロ/ドル相場の動向



## 2. 来週の注目材料

- 米国では、本日 7 日(金)に 11 月ミシガン大学消費者マインド(速報)が公表予定になっている。10 月分の確報値を確認すると、ヘッドラインの消費者マインドは 53.6 と 9 月の 55.1 から低下、5か月ぶりの低水準に沈んだ。指数の内訳を確認すると、現況指数は 58.6 と 2022 年 8 月以来の低水準を、期待指数は 50.3 と 2025 年 5 月以来の低水準を記録した。公表元の発表文を見る限り、物価高や雇用見通し悪化が消費者センチメントの重しになっている模様だ。他方で、政府機関閉鎖に絡んだセンチメントの変化はほとんど見られなかったとのコメントも記された。同調査のインフレ期待に目を移すと、1 年先が+4.6%(前年比、以下同様)、5~10 年先が+3.9%となつた。前者は 3 か月ぶりの低水準である一方、後者は 4 か月ぶりの高水準を記録した。なお、ブルームバーグの事前予想では、11 月の結果(速報)に関し、消費者マインドを 53.0、1 年先期待インフレ率を+4.6%と見込んでいる。
- 本邦では、10 日(月)に日銀金融政策決定会合の主な意見(10 月会合分)が公表される予定だ。既報の通り 10 月会合は政策金利の据え置きを賛成多数で決定したが、高田・田村両審議委員はやはり利上げを主張した。経済物価見通しは 7 月時点から大きな変化はなく、リスク要因や金融政策運営の文言もほぼ据え置き。植田総裁は物価安定目標達成への確度が高まっているとしつつ、利上げ再開のタイミングに関しては慎重な姿勢を維持した。特に、次の春闘を重視する姿勢を強調しており、これが市場ではハト派的と解釈された。「主な意見」においては、利上げ支持の具体的な背景説明はもちろんのこと、春闘の見通し、米関税政策による国内経済の影響の程度、利上げ再開に向けた距離感などに関する言及を確認したい。

	本邦	海外
11 月 7 日(金)	・9 月家計支出	・独 9 月貿易収支 ・米 10 月雇用統計 (*) ・米 11 月ミシガン大学消費者マインド(速報)
10 日(月)	・日銀金融政策決定会合 主な意見(10 月会合分) ・9 月景気動向指数(速報)	・ユーロ圏 11 月センティックス投資家信頼感
11 日(火)	・9 月国際收支 ・10 月景気ウォッチャー調査	・独 11 月 ZEW 景気期待指数 ・米 10 月 NFIB 中小企業楽観指数
12 日(水)	・10 月工作機械受注(速報)	・独 10 月消費者物価指数(確報) ・独 9 月經常収支
13 日(木)	・10 月国内企業物価指数	・ユーロ圏 9 月鉱工業生産 ・米 10 月消費者物価指数(*)
14 日(金)	・9 月第 3 次産業活動指数	・ユーロ圏 7~9 月期 GDP(改定値) ・ユーロ圏 9 月貿易収支 ・米 10 月小売売上高(*) ・米 10 月生産者物価指数(*)

(\*) 米政府閉鎖に伴い、米政府統計機関公表の各種経済指標は延期される可能性がある

### 【当面の主要行事日程(2025 年 11 月～)】

FOMC(12 月 9~10 日、1 月 27~28 日、3 月 17~18 日)

ECB 政策理事会(12 月 18 日、2 月 5 日、3 月 19 日)

日銀金融政策決定会合(12 月 18~19 日、1 月 22~23 日、3 月 18~19 日)

国際為替部  
チーフマーケット・エコノミスト  
唐鎌大輔(TEL:03-3242-7065)  
[daisuke.karakama@mizuho-bk.co.jp](mailto:daisuke.karakama@mizuho-bk.co.jp)

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようにお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。

バックナンバーをご希望の方は以下のサイトからお取り頂くことも可能です  
<http://www.mizuhobank.co.jp/forex/econ.html> (*Archives*) [http://www.mizuhobank.co.jp/forex/econ\\_backnumber.html](http://www.mizuhobank.co.jp/forex/econ_backnumber.html)

発行年月日	過去6か月のタイトル
2025年10月31日	週末版
2025年10月28日	日米首脳会談の見どころ～防衛費と円安～
2025年10月27日	下落に転じた円の実効相場～「米国と一蓮托生」の弱み～
2025年10月24日	週末版
2025年10月23日	世界の為替市場の現在地～BIS調査を受けて～
2025年10月22日	高市政権発足を受けて～粘着的なりフレ期待～
2025年10月20日	民・維新連立政権～しぶとい円安・円金利上昇～
2025年10月17日	週末版
2025年10月16日	2025年、サービス赤字はまだ決壊せず
2025年10月15日	スピードアップするデカップリング～トランプ関税分析～
	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2025年9月分)
2025年10月14日	「貢すれば多党化」～欧州化する日本政治～
2025年10月10日	週末版
2025年10月9日	フランスリスクはユーロリスクに発展するか？
2025年10月8日	利上げを助ける高市トレード
2025年10月7日	史上最高値を更新したユーロ/円相場
2025年10月6日	高市政権誕生と今後の論点整理
2025年10月3日	週末版(外貨準備構成通貨の近況について(2025年6月末時点))
2025年10月2日	25年度上半期レビュー～主役の欧州通貨、悲惨な円～
2025年10月1日	いよいよ終焉を迎える「現預金50%」時代
2025年9月26日	週末版
2025年9月24日	ユーロの基軸通貨性を再考する～global euro～
2025年9月22日	日銀金融政策決定会合～10月利上げは堅いのか？～
2025年9月19日	週末版
2025年9月18日	FOMCを終えて～可視化される独立性毀損～
2025年9月17日	日銀金融政策決定会合レビュー～自動車、読めず～
2025年9月16日	日米財務大臣共同声明の読み方～2つの論点～
2025年9月12日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2025年8月分)
	週末版(ECB政策理事会を終えて～基本は現状維持、利上げの機会を窺う～)
2025年9月11日	警戒すべき「貢い事故」～海外からの財政リスク相場～
2025年9月10日	円相場の需給環境について～頭打ちとなるヒト関連～
2025年9月9日	誰が首相になっても「変わらぬ3つの論点」
2025年9月8日	統・対米投資5500億ドル合意の現在地
2025年9月5日	週末版
2025年9月4日	遂に「利上げ再開」の兆しも出始めたECB
2025年9月3日	対米投資5500億ドル合意の現在地
2025年8月28日	週末版
2025年8月27日	円金利上昇の背景はどこに～円安終わらず～
2025年8月25日	シャクソンホール経済シンポジウムの読み方
2025年8月22日	週末版(「ユーロ圏の「人手不足」はどうなったのか？～「需要不足」への問題意識は高止まり～)
2025年8月20日	4～6月期、「米国離れ」の真相～TICデータ～
2025年8月19日	上半期の円の需給環境について～改善傾向～
2025年8月18日	欧州の外交成果が垣間見えた米露首脳会談
2025年8月15日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2025年7月分)
	週末版(「家計部門の投資意欲」に腰折れ懸念～「海外→国内」のローテーションはあるか？～)
2025年8月14日	ニクソン・トランプ比較論～争点は「覇権国の管理コスト」～
2025年8月13日	ニクソン・トランプ比較論～恐れるべき結末～
2025年8月12日	過剰反応すべきではないFRB人事の影響力
2025年8月8日	週末版
2025年8月5日	米EU交渉の評価～妥協か、英断か～
2025年8月4日	遂に現れた関税の影響～雇用統計の読み方～
2025年8月1日	週末版(日銀会合を終えて～霧は完全に晴れずも10月利上げが視野に～)
2025年7月31日	FOMCを終えて～年末以降、非常に厄介な状況に～
2025年7月29日	「米国離れ」の検証～5月は過去最大の資本流入～
2025年7月28日	対米投資利益の解釈～「90%取られる」の意味～
2025年7月25日	週末版(ECB政策理事会を終えて～6月から状況変わらず～)
2025年7月23日	日米関税交渉の合意について～日銀への影響あり～
2025年7月22日	参院選を終えて～現状と展望の整理～
2025年7月18日	週末版(日銀レビュー～「前門の国内政治、後門の米国政治」～)
2025年7月16日	日本版トランショック再考～脆弱性は否めず～
2025年7月15日	日本版トランショック再考～現実味を考える～
2025年7月14日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2025年6月分)
	日本政治の現状と展望～日本売りの材料になる政治～
2025年7月11日	週末版
2025年7月10日	追い詰められているのは米国も一緒～TACOの前提～
2025年7月9日	関税の緩衝材となる円安～日銀の判断は～
2025年7月8日	膠着する家計の投資意欲とその今後
2025年7月7日	物価高対策を巡る不可思議～王道は利上げ～
2025年7月4日	週末版
2025年7月3日	今、考えるユーロ/ドル相場の高値目途
2025年7月2日	インフレ適応が続く家計、諦観強まる若年世代
2025年7月1日	25年上期レビュー～「欧州の強さ」と「円の弱さ」～
2025年6月27日	週末版
2025年6月26日	NATO首脳会議～動き出した欧州の戦略的自律～
2025年6月25日	「米国離れ」は本当なのか～4月に起きていたこと～
2025年6月24日	衰えないイスラエル～欧州資産へのローテーション～
2025年6月23日	目立ってきた日本の高インフレと中東リスクへの不安
2025年6月20日	週末版(FOMCを終えて～ドル/円相場への含意～)
2025年6月18日	貴かれなかった「べき」論～優しさの代償は？～
2025年6月16日	中東事変とドル/円相場への影響～円売り優勢～
2025年6月13日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2025年5月分)
	週末版(変わるドル凋落相場の背景～米国主導ではなく他国主導に～)
2025年6月12日	日銀会合レビュー～「もう闇与しない」を示す時～
2025年6月11日	円の基礎的需給環境について～暴落後の挙動～
2025年6月10日	新しい対内直接目標の読み方～「骨太の方針」～
2025年6月9日	為替政策報告書を受けて～年金運用への注文？～
2025年6月6日	週末版(ECB政策理事会を終えて～利下げ局面の終わり？～)
2025年6月4日	ユーロ圏5月消費者物価指数(HICP)の読み方
2025年6月3日	ECB政策理事会レビュー～利下げは当然視できる？～
2025年6月2日	欧州再軍備と欧州版ハミルトン・モーメント
2025年5月29日	IEEPA違法判決はゲームチェンジャーになるか？
2025年5月28日	34年ぶりの首位陥落～24年末対外純資産について～
2025年5月26日	懸念通りの米EU交渉～日本との違い～